



DEX PRESS RELEASE

平成 22 年 11 月 2 日

各 位

DesignEXchange®

デザインエクスチェンジ株式会社

代表取締役 森谷 一彦

(コード番号 4794 東証マザーズ)

問合せ先: 取締役 前田 雅弘

(TEL. 03 - 5458- 7030)

内部統制報告書の訂正報告書について

当社は、平成22年3月31日に提出いたしました第17期（自 平成21年1月1日 至 平成21年12月31日）内部統制報告書の記載事項について、記載事項の一部を追加訂正するため、金融商品取引法第24条の4の5第1項に基づき、内部統制報告書の訂正報告書を平成22年11月1日に提出いたしましたので、お知らせいたします。追加訂正の内容は、次のとおりです。訂正箇所は、_を付して表示しています。

3 【評価結果に関する事項】

(訂正後)

下記に記載した事項は、財務報告に重要な影響を及ぼす可能性が高く、重要な欠陥に該当すると判断します。従いまして、当該事業年度末日における当社グループの財務報告に係る内部統制は有効でないと判断いたしました。

記

当社は、決算・財務報告プロセスの連結財務諸表および財務諸表の作成に関する会計処理および開示について第三者調査委員会および監査人より複数の指摘を受けて、修正しております。

著作権の評価、固定資産の評価、簿外債務の存在について不適切な会計処理が発見されました。これらの事実は、当社の全社的な内部統制において、業務負担の過多等により一部に内部統制の信頼性不足の事象が見られたことや、人員不足による組織内でのチェックアンドバランスが十分に機能しない場面が一部にあったこと、役員は経営者を適切に監督監視する責任を感じつつも、社外役員が殆どの役員構成であり常に役員会に参加できないことから、監督監視の遂行において、十分でない場面が見受けられたことなど、職務分掌や相互牽制が十分には機能していなかったこと、リスク識別及びその評価に不十分な点があったことなどの不備があり、内部統制が機能しなかったことによるものです。

また、全社的な観点で評価する決算・財務報告プロセスに関する内部統制において、固定資産の減損の兆候の判定についてのプロセス、投資有価証券等の評価についてのプロセスなどに不備があったため、不適切な会計処理が行なわれ且つその発見に遅れを生じさせたものと認識しております。

事業年度末日までに是正されなかつた理由は、決算・財務報告プロセスの有価証券報告書作成過程の運用評価手続の実施が事業年度末日以降となつたためであります。

当社は、財務報告に係る内部統制の整備および運用の重要性は認識しており、重要な欠陥の検出後、業務フローの見直しより実効性の高いものとすべく、環境の再整備を進めており、翌連結会計年度においては、適切な内部統制を整備・運用する方針であります。

DEX PRESS RELEASE

当社では、第三者調査委員会の報告を受け、同委員会の提言を踏まえての是正措置・再発防止策を講じてまいります。

- ① 当社では従前よりコンプライアンス重視の経営方針を明示してまいりましたが、社内全般に浸透しきれていなか
ったことを反省し、そのさらなる徹底を図ってまいります。
- ② 当社ではコーポレートガバナンスの強化を図るよう進めてまいります。
- ③ 財務報告の虚偽記載を防ぐため、会計処理の基本原則や基準に関するルールの再徹底を図るとともに、取引事実
に基づいた会計処理を行なうよう、社内の業務プロセスに関する内部統制を再構築いたします。

当訂正報告書は、平成22年9月14日付けの提出を予定しておりましたが、事務上の手違いにより、平成22年11月1日
付けの提出となつたものであります。その訂正内容に係る監査報告書につきましては、平成22年9月14日付け「独立監
査法人の監査報告書及び内部統制監査報告書」において、次の追記情報を記載することにより訂正されております。

なお、訂正報告書の提出が平成22年11月1日付けとなつたことに対しての監査報告書の追加訂正は不要との意見を監
査法人から得ております。

追記情報

1. 内部統制報告書の訂正報告書の提出理由に記載されているとおり、会社は金融商品取引法第24条の4の5第1
項の規定に基づき内部統制報告書を訂正している。当監査法人は訂正後の内部統制報告書について監査を行つ
た。
2. 内部統制報告書の訂正報告書に記載されているとおり、全社的な内部統制及び全社的な観点で評価する決算・
財務報告プロセスに関する内部統制に重要な欠陥があり、会社は連結財務諸表の訂正を行つた。この結果、必
要な修正はすべて訂正した連結財務諸表に反映されており、財務諸表監査に及ぼす影響はない。

以 上